



Title: 茅ヶ崎の北陽中学校が気になる

年度末。やな言葉ですね。この言葉が好きな人っているのでしょうか。いたら手を挙げてください。あ、やっぱり結構です、どう反応していいか分からないので。

#### ❖ 学校が消えること

学校の統廃合が進んでいます。大館市では今世紀だけでも小学校7校が閉校しました。この春は二中、花岡中、矢立中の3校が統合されて北陽中が開校します。

社会の変化や財政状況などいろいろ事情はあるでしょうし、各地域の住民からも一定の理解を得られたからの統廃合でしょう。それでも学校がなくなるのは淋しいものです。私も、生まれた小さな鉾山はとうの昔に閉山し、卒業した小学校も中学校も既にありません。山の中の小学校で思いだすのは、運動会や学芸会が、住民全員が集まっているんじゃないかと思うほどの賑わいだったこと。学校は単なる教育施設でなく、それ以上に地域の象徴的な存在だったように思えます。

平成17年の合併を機に、市内の廃校になった小学校の跡地を訪ね歩いたことがあります。中でも印象に残っているのは、成章小学校合津冬季分校（昭和27～46年）と山田小学校保滝沢冬季分校（昭和31～45年）です。建物が現存していますが、物置に転用されたその小ささと、それ故になおさら強く感じる集落の人たちの教育への熱意に、ある種の感動を覚えました。

大館市は広大です。東京23区の約1.5倍の面積913.7km<sup>2</sup>は、全国790市の中で27番目の広さ。しかし人口は359位（平成26年10月の推定値）で、人口密度に至っては710位（1km<sup>2</sup>当たり82人）です。可住地で比べないと意味がない気もしますが、とにかく広い地域に人口が散らばっている。そんな大館でしかも人口が自然減のサイクルに入っているとすれば、学校だけでなく施設統廃合の流れは止めようもないでしょう。それでも、新たな地域アイデンティティの拠りどころを何かに、あるいはどこかに見つけなければ、大館は「ふるさと」としての求心力を失ってしまいます。

図書館はそのために使える施設にならなければならない、と思います。図書館法第3条（図書館奉仕）に「土地の事情及び一般公衆の希望に沿い」と謳われているのは、そういうことも含めてのことでしょうから。

#### ❖ 気になる名称

ほくよう中学校とつぶやいて思ったんですが、お隣の市には「ほくよう」高校がありましたね。ところで、北陽中学校って他にもありそうだと思います。ググってみました。4か所見つけました。札幌市立、越谷市立、茅ヶ崎市立、関西大学北陽中（大阪市）。結構イメージいいんじゃないですか。

ついでに東陽、西陽、南陽でも調べると…。東陽中は、あるある、旭川市から熊本県八代市まで全国各地に15校。西陽中は、あれ、ない。やっぱり「にしび」は敬遠されるか。南陽中は浜松市、豊橋市、名古屋市と、なぜか3校とも中部地方最南部です。ちなみに山形県南陽市に南陽中はありません。

ということで、「（東・南・北）＋陽」中学校はどうやら四国にはなくて、東北でも

大館だけらしいことが分かりました。もっとも、日本中の中学校にあたっての結果ではありません。お遊びということで悪しからず。

名称でもうひとつ気になるのが、北陸新幹線開通に伴いJRから分離され、県別に第3セクターとなった並行在来線の社名です。「IRいしかわ鉄道」（石川県）のIRはイシカワ・レイルウェイの頭文字ですが、「アイアール=愛ある」鉄道の意味も持たせたそうです。「あいの風とやま鉄道」（富山県）は、日本海沿岸の春夏の季節風「あいの風」に「愛の風」を掛けている。「えちごトキめき鉄道」（新潟県）は、説明不要でしょう。原武史さんも講談社のPR誌『本』連載の「鉄道ひとつばなし」で怒っていましたが、恥ずかしくて声に出しにくいですね。キラキラネームの中で残りの1社は潔い。長野県の「しなの鉄道」のすっきりして気持ちのいいこと。（陽）